

「脱炭素社会ぎふ」・森林吸収量認証制度（G－クレジット制度）
認証申請書

西暦 2025 年 9 月 19 日

G－クレジット制度管理者 御中

添付のモニタリング報告書に基づいた認証について申請いたします。

プロジェクト実施者情報（※1）										
事業者名		NPO法人奥矢作森林塾								
住所		〒 509-7831								
		都道府県		市区町村		市区町村以降の住所				
		岐阜県		恵那市		串原1149番地2 奥矢作レクリエーションセンター内				
代表者役職		理事長								
代表者氏名		小林太郎								
担当者氏名		小林太郎								
担当者所属・役職		事務局								
担当者E-mail		taro@youkan.enaf.jp					担当者電話番号		090-5036-0380	
連絡先情報（上記プロジェクト実施者と異なる箇所があれば記入）（※2）										
事業者名										
代表者氏名										
担当者氏名										
担当者所属・役職										
担当者E-mail							担当者電話番号			
プロジェクトの情報										
プロジェクト番号		G12-2024								
プロジェクトの名称		矢作川水源地・恵那市串原地域の明日へ繋げる森林再生プロジェクト								
審査機関名		特定非営利活動法人 農林業経営支援センター								
発行するクレジットの情報（※3）										
方法論	区分	GFO	番号	GFO-01	バージョン	1.2	吸収量	386	t-CO2	
G－クレジットを発行する口座情報（※3）（※4）										
発行量		375				t-CO2				
口座番号（※4）		JPG-100-212105-01-00 0 0 1 6 6 -00								
口座保有者名		NPO法人奥矢作森林塾								
代表者役職・氏名		理事長 小林太郎								
発行量		11				t-CO2				
口座番号		JPG-100-210005-00-00 0 0 6 0 0 -00								
口座保有者名		G－クレジット用 バッファー管理口座								
代表者役職・氏名		-								

※1 複数のプロジェクト実施者が参加する場合には、シートを追加してそれぞれのプロジェクト実施者の情報を記載すること。
※2 連絡先情報は、G－クレジット制度運営事務局からの連絡や資料送付を、プロジェクト実施者とは異なる宛先に行ってほしい場合に記載する。
※3 G－クレジット発行量は認証申請量と同一とすること。
※4 G－クレジット登録簿システムのG－クレジット保有口座の番号を記載すること。原則として、認証申請までに保有口座を取得しておくこと。

添付資料
・モニタリング報告書
・巡視報告書（巡視を実施した場合に限る）
・検証報告書

「脱炭素社会ぎふ」・森林吸収量認証制度 (Gークレジット制度)

モニタリング報告書

プロジェクトの名称: 矢作川水源地・恵那市串原地域の
明日へ繋げる森林再生プロジェクト

プロジェクト 実施者名	NPO法人奥矢作森林塾
----------------	-------------

検証申請日 西暦 2025 年 8 月 22 日

認証申請日 西暦 2025 年 9 月 19 日

1 プロジェクト計画の変更

Ver.2.1

1.1 プロジェクト計画の変更

プロジェクト計画書からの変更	<input type="radio"/>	前回の認証申請日以降から変更なし
		前回の認証申請日以降から形式的な変更あり ※1
	<input type="checkbox"/>	変更届を制度管理者へ提出済み
	<input type="checkbox"/>	認証申請の際に変更届を制度管理者へ提出する予定
		前回の認証申請日以降から形式的な変更以外の変更あり ※2

※1 制度管理者へ提出した又は提出する予定の変更届の写しを審査機関に提出すること。

※2 形式的な変更以外の変更がある場合には、変更内容を記載したプロジェクト計画変更届を作成し、審査機関に提出すること。

2 認証を申請する期間

2.1 認証対象期間及び過去の認証状況

認証対象期間 ※1	2024 年 4 月 1 日 ～ 2032 年 3 月 31 日											
	計画値	/ / / / / / / / / / / / (5536 t-CO2)										
過去の認証状況 ※2	第1回	年	月	日	～	年	月	日	(t-CO2)		
	第2回	年	月	日	～	年	月	日	(t-CO2)		
	第3回	年	月	日	～	年	月	日	(t-CO2)		
	第4回	年	月	日	～	年	月	日	(t-CO2)		
	第5回	年	月	日	～	年	月	日	(t-CO2)		
	第6回	年	月	日	～	年	月	日	(t-CO2)		
	第7回	年	月	日	～	年	月	日	(t-CO2)		
	第8回	年	月	日	～	年	月	日	(t-CO2)		

※1 認証対象期間は、プロジェクト開始日の含まれる年度の開始日から、同日より8年を経過する日までの間で設定すること。

※2 過去に吸収量の認証を受けている場合には、各期間と認証されたトン数を記載すること。

2.2 本報告において認証を申請する期間

認証を申請する期間	2024/4/1	～	2025/3/31	(1)	回目の認証
期間の妥当性 ※1	<input type="radio"/>	2.1の認証対象期間内である			
	<input type="radio"/>	過去の認証済み期間と重複がない			
	<input type="radio"/>	検証申請日以降の期間が含まれていない			
	<input type="radio"/>	他の類似制度への認証申請の対象期間と重複がない			

※1 全項目を満たすことを確認すること。

3 排出削減量

Ver.2.1

3.1 モニタリング結果の概要 ※1

モニタリング方法の変更	変更あり ※2	
	○ 変更なし	
モニタリングの頻度	○	プロジェクト計画書に記載したモニタリング計画に記載された頻度を満たした
		プロジェクト計画書に記載したモニタリング計画に記載された頻度を満たしていない （「満たしていない」を選択した場合、その概要及び講じた対応を記載すること）
結果の概要	主に以下の理由により、計画量(629t-CO2)を下回る吸収量となった ・一部の森林の林齢が高かったため ・一部の森林の地位が低かったため	

※1 モニタリング結果の詳細は「5.1 モニタリング実績」に記載すること。

※2 1.1において記載した変更のうち、モニタリング方法に関する変更がある場合については、本項目を選択すること。

3.2 吸収量の算定

3.2 吸収量の算定		-		
適用方法論	区分	方法論番号	方法論バージョン	方法論名称
	GFO	GFO-01	ver. 1.2	森林管理活動
ベースライン	吸収量 ※1			0 t-CO2
プロジェクト実施後	吸収量 ※1			386 t-CO2
	排出量 ※1			0 t-CO2
吸収量 ※2				386 t-CO2
吸収量の累計 ※3				386 t-CO2

※1 ベースライン吸収量及びプロジェクト実施後吸収・排出量は、小数点第二位以下は四捨五入し、小数点第一位まで記載すること。また、算定結果の詳細は5.2吸収量の算定方法(GFO-01用)に記載すること。

※2 吸収量については小数点第一位以下を切り捨てし、整数で記載すること。

※3 認証対象期間の吸収量の累計値を記載すること。なお、バッファー管理口座分(プロジェクトから発行されるGークレジットのうち3%)を差し引く前の吸収量の累計値とする。

4 プロジェクト計画書の添付

※ 登録済みのプロジェクト計画書を添付すること。

モニタリング項目			モニタリング方法 ※3			計量器			備考
記号	定義	単位	概要	詳細	頻度	計量器の種類	精度	計量器の校正方法の説明	
Area _{Forest,i}	森林施業が実施された森林の面積 (森林の面積に0.9を乗じた値)	ha	実測(コンパス・GPS 測量併用)	補助金受給の際にコンパス、またはGPS測 量機により測量した面積を使用した	初回申請時に1回	—	—	—	
ΔTrank _{SC,i}	(年間)幹材積成長量	m ³ /ha	収穫予想表等	(使用する収穫予想表の名称を記載するこ と)	検証申請時に1回	—	—	—	
				岐阜県林政部 人工林林分収穫表					
Trank _{SC,out,i}	幹材積量	m ³ /ha	収穫予想表等	(使用する収穫予想表の名称を記載するこ と)	検証申請時に1回	—	—	—	
				岐阜県林政部 人工林林分収穫表					
WD _i	容積密度	t/m ³	デフォルト値	Gークレジット制度 モニタリング・算定規定	検証申請時に最新のものを 使用	—	—	—	
BEF _i	拡大係数	—	デフォルト値	Gークレジット制度 モニタリング・算定規定	検証申請時に最新のものを 使用	—	—	—	
CF	炭素比率(炭素含有率)	—	デフォルト値	Gークレジット制度 モニタリング・算定規定	検証申請時に最新のものを 使用	—	—	—	
R _{ratio,i}	地下部率	—	デフォルト値	Gークレジット制度 モニタリング・算定規定	検証申請時に最新のものを 使用	—	—	—	
i	地位等による階層	—	航空レーザー計測	(地位特定のためのモニタリングプロット は、設定箇所を森林計画図・オルソ画像、 空中写真等を用いて別添資料として示すこ と)	初回検証申請時に1回	(胸高直径の測定に使用する計量器を記 載)	—	—	
				岐阜県が実施した航空レーザー測量デー タの解析による立木データを活用したため、 胸高直径の計測は不要					
				岐阜県が実施した航空レーザー測量デー タの解析による立木データを活用し、地位級 の判定を行った		(樹高の測定に使用する計量器を記載)	—	—	
				岐阜県の航空レーザー解析データを使用					

※1 面積、胸高直径、樹高の実測結果の野帳等は、検証機関や制度管理者から要求があった場合に提出できるよう準備しておくこと。

※2 モニタリングエリアごとに異なるモニタリング方法を適用する場合には、行を追加した上でモニタリングエリアごとに記載すること。

5.2.吸収量の算定方法

選択するセル

入力しないセル

5.2.1 本報告において認証を申請する期間

Ver.2.1

	【開始日】	【終了日】
認証を申請する期間	2024年04月01日 ~	2025年03月31日

※1 認証を申請する期間は、認証対象期間(プロジェクト開始日の含まれる年度の4月1日から、同日より8年を経過する日で設定)内であり、過去の検証済み期間、検証申請日以降の期間、他の類似制度への認証申請の対象期間の何れとも重複がないこと。

5.2.2 吸収量

$$C_{total} = C_{PJ} - C_{cut} - C_{BL}$$

記号	定義	単位
C_{total}	当該年度の吸収量	tCO2
C_{PJ}	当該年度のプロジェクト実施後吸収量	tCO2
C_{cut}	当該年度のプロジェクト実施後排出量	tCO2
C_{BL}	当該年度のベースライン吸収量	tCO2

年度	当該年度の ベースライン吸収 量※3 C_{BL} (tCO2)	当該年度の プロジェクト実施後 吸収量 (総吸収量)※1 C_{PJ} (tCO2)	当該年度の プロジェクト実施後 排出量※2 C_{cut} (tCO2)	当該年度の モニタリング期間 (日)	当該年度のプロ ジェクト実施後 吸収量 (純吸収量) C_{total} (tCO2)
2024年度	0.0	386.0	0.0	365	386
合計	0.0	386.0	0.0	365	386

※1 当該年度のプロジェクト実施後吸収量は、5.2.3に記載の当該年度のプロジェクト実施後吸収量が記載される。

※2 当該年度のプロジェクト実施後排出量は、5.2.4に記載の当該年度のプロジェクト実施後排出量が記載される。

※3 当該年度のベースライン吸収量は、5.2.5に記載のベースライン吸収量が記載される。

5.2.3 プロジェクト実施後吸収量

$$C_{PJ} = C_{PJ,AG} + C_{PJ,BG}$$

記号	定義	単位
C_{PJ}	当該年度のプロジェクト実施後吸収量	tCO2
$C_{PJ,AG}$	当該年度の地上部バイオマス中の吸収量	tCO2
$C_{PJ,BG}$	当該年度の地下部バイオマス中の吸収量	tCO2

年度	当該年度の地上 部バイオマス中の 吸収量 $C_{PJ,AG}$ (tCO2)	当該年度の地下 部バイオマス中の 吸収量 $C_{PJ,BG}$ (tCO2)	当該年度の プロジェクト 実施後吸収量 (総吸収量) C_{PJ} (tCO2)
2024年度	308.7	77.3	386.0
合計	308.7	77.3	386.0

※1 当該年度の地上部バイオマス中の吸収量及び当該年度の地下部バイオマス中の吸収量の詳細については、(別紙)吸収量算定シートに記載する。

5.2.4 プロジェクト実施後排出量

$$C_{cut} = C_{cut,AG} + C_{cut,BG}$$

記号	定義	単位
C_{cut}	当該年度のプロジェクト実施後排出量	tCO2
$C_{cut,AG}$	当該年度の地上部バイオマス中の排出量	tCO2
$C_{cut,BG}$	当該年度の地下部バイオマス中の排出量	tCO2

年度	当該年度の 地上部バイオマス 中の排出量 $C_{cut,AG}$ (tCO2)	当該年度の 地下部バイオマス 中の排出量 $C_{cut,BG}$ (tCO2)	当該年度の プロジェクト実施後 排出量 C_{cut} (tCO2)
2024年度	0.0	0.0	0.0
合計	0.0	0.0	0.0

※1 当該年度の地上部バイオマス中の排出量及び当該年度の地下部バイオマス中の排出量の詳細については、(別紙)排出量算定シート(GFO-01)に記載する。

5.2.5 ベースライン吸収量の考え方

(1) ベースライン吸収量の考え方

本プロジェクトにおけるベースライン吸収量は、2012年4月以降に森林施業(保育、間伐)を行った人工林の面積において、2012年4月以降適切な森林経営がなされなかった場合の吸収量とする。

(2) ベースライン吸収量の算定式

$$C_{BL} = 0$$

記号	定義	単位	想定値
C_{BL}	当該年度のベースライン吸収量	tCO2	0